



JAPAN CANCER
SURVIVORS DAY

June 2, 2024

ジャパンキャンサーサバイバーズデイ 2024

がんと診断された方への 最初の処方箋

—わたしらしく生きるために—

開催報告書

2024年8月8日

主催：公益財団法人 日本対がん協会

2024年6月2日（日）、日本対がん協会は、がん患者・家族が必要な支援を受けられるように情報を提供するイベント「ジャパンキャンサーサバイバーズデイ（JCS D）2024」を、国立がん研究センター 築地キャンパス 研究棟（東京都中央区）にて開催しました。今年、「がんと診断された方への最初の処方箋—わたしらしく生きるために—」をテーマとし、4つの講演、22団体によるブース出展、3つの企画展示などを行い、多くの方にご来場いただきました。開催に際し多大なご協力をいただいた講師、患者会・支援団体、企業、ボランティアの皆様などの関係者の皆様、またご来場いただいた皆様にご心より御礼申し上げます。ここに開催のご報告を記させていただきます。

公益財団法人日本対がん協会
会長 垣添 忠生

< イベント概要 >

タイトル	JAPAN CANCER SURVIVORS DAY 2024 (ジャパン キャンサー サバイバーズ デイ 2024)
テーマ	がんと診断された方への最初の処方箋—わたしらしく生きるために—
開催日時	2024年6月2日(日) 11:00～15:00 (開場10:30/閉場15:30)
会場	国立がん研究センター 築地キャンパス 研究棟 大会議室（大ホール）、セミナールームA・B、ホワイエ
参加費	無料
対象	がん患者・家族・医療従事者・一般 どなたでも
開催形態	会場開催（リアル開催）
URL	https://www.gsclub.jp/jcsd2024
講演 プログラム	【講演1】「がんになっても人生は続く～「わたしらしく」生きるためのヒント」 高橋都先生 【講演2】「大切な人ががんになった時の心との向き合い方」 坂本 はと恵 氏 【講演3】「あなたがこれから受けるがん治療について」 片山 宏 先生 【講演4】「がんと診断された時 家族・患者と医療者の相互コミュニケーション、 患者力について」 守田 亮 先生
出展ブース	22団体
情報コーナー	7団体
企画展示	【企画1】メッセージツリー（がんと診断された方や治療中の方へのメッセージ） 【企画2】「教科書”にない入院持ち物リスト@2024年版」をみんなで作ろう！ 【企画3】日本対がん協会「がん相談ホットラインに届く声」
参加者	379名
講演動画	開催レポートにて公開
開催レポート URL	講演動画や写真、感想アンケート結果などを掲載 https://www.jcancer.jp/consultation_and_support/jcsd/2024report

< 大ホールプログラム >

【司会進行】



日本対がん協会
堀 均

【開会挨拶】



日本対がん協会
会長 垣添 忠生

【閉会挨拶】



日本対がん協会
常務理事 石田 一郎

4つの【講演】動画はWEBサイトにてご視聴いただけます。

【講演 1】

「がんになっても人生は続く～「わたしらしく」生きるためのヒント」



高橋都先生
内科医， NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事
岩手医科大学客員教授， 東京慈恵会医科大学客員教授

高橋都先生は、病気体験をハングライダーに例え、病状や治療など思うようにならないことがあっても、風を受けてうまく飛ぶことはできると言い、がん向き合いながら生きていくには、無理をせず、嫌なことは避けるなど自分の気持ちに正直になることが大事だと話しました。また、病気と向き合うには時間も必要で、家族ががん診断されても慌てず、徐々に状況に慣れることも大切だとしました。

【講演 2】

「大切な人ががんになった時の心との向き合い方」



坂本 はと恵 氏
国立がん研究センター東病院 サポートケアセンター／がん相談支援センター
副サポートケアセンター長， 社会福祉士

坂本はと恵氏は、がん相談支援センターについて患者・家族だけでなく誰でも利用でき、患者と医療者との橋渡し役になると説明。また、がんに関する信頼できる情報を提供するとともに、相談者の話を聴く中で気づきや見落としの確認を促し、自らが課題を解決できるよう支援をする場所と紹介しました。

【講演 3】

「あなたがこれから受けるがん治療について」



片山 宏 先生
国立がん研究センター中央病院 臨床研究支援部門 研究企画推進部 多施設研究支援室 室長／JCOG運営事務局長

片山宏先生からは、がん治療は手術、放射線治療、薬物療法の3つがあり、多くの標準治療はこれらが組み合わせられている。薬物や標準治療が認められるまでには長い年月がかかるが、前段となる臨床試験や治験ではさまざまな患者が参加できる。あわせて、がん情報の見極め方の助言もしました。

< 大ホールプログラム >

【講演4】

がんと診断された時 家族・患者と医療者の相互コミュニケーション、患者力について

守田 亮 先生

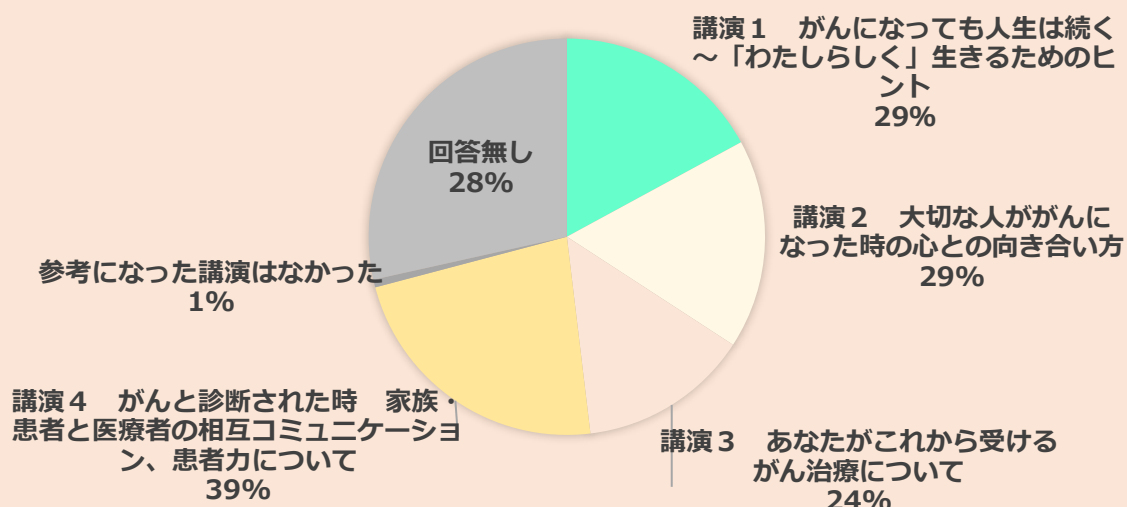
秋田厚生医療センター 呼吸器内科 科長

守田亮先生は、がん告知直後は冷静さを失い、さまざまな情報に振り回され、医療者とうまくコミュニケーションできないことが多いことを自身の経験も交えて説明。治療を受けながら自分らしく生きていくには「患者力」が必要であり、情報を見極める力を養い、「伴走者」である医療者へ自分の希望や価値観を伝えられるようになることが大切だと話しました。



【アンケート】 参考になった講演は？

ほぼすべての講演が参考になったと回答をいただきました。



【感想（一部抜粋）】

「情報が大事だと痛感」（患者会・患者支援活動に関わる方）

「主治医との関係性を良いものにする為に、今日の講演に多くのヒントがありました。講演の話すスピードやスライドの切り替えが早く、メモを取っていると置いていかれる場面がありました。後日の録画配信で復習したいと思っています」（がん経験者（告知後1年以上5年未満））

「病院、医師との関わり方について参考になった」（がん経験者（告知後1年以上5年未満））

「患者力のセミナーを聞いて、今後主治医とのコミュニケーションの取り方を変えて、もう少し自分の治療について向き合うようにして行きたいと思った」（がん経験者（告知後1年以上5年未満））

「がん相談支援センターで最新の制度変更情報をゲットできることを知った。臨床試験について初めて知った。守田先生、素晴らしいプレゼン力、医者への理解の重要性をありがとうございます。」（ご家族・パートナー）

「治験について関心を持ちました」（がん治療後の定期通院中の方・経過観察中の方）

【出展団体】

一般社団法人患者家計サポート協会
認定NPO法人がんサポートコミュニティー
リボンズケアumiと仲間たち
認定NPO法人キャンサーネットジャパン
NPO法人くまがやピンクリボンの会
認定NPO法人マギーズ東京
港区立がん在宅緩和ケア支援センターういケアみなと
キャンサーペアレンツ〜こどもをもつがん患者でつながろう〜
NPO法人Hope Tree
一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク
希少がん情報コーナー
presented by国立がん研究センター希少がんセンター
一般社団法人キャンサーフィットネス
一般社団法人仕事と治療の両立支援ネットーブリッジ
認定NPO法人オレンジティ
AYA GENERATION+
一般社団法人ピアリング
日本キャリア開発協会（りぼら）
一般社団法人食道がんサバイバーズシェアリングス
一般社団法人アピアランス・サポート東京
がんフォト＊がんストーリー
資生堂ジャパン株式会社
Fleep（フリープ）島崎株式会社
公益財団法人日本対がん協会



< 情報コーナー（ポスター・チラシ展示） >

【利用団体】

国立がん研究センター がん情報サービス
一般社団法人CSRプロジェクト
若年性がん患者団体 STAND UP!!
若年性乳がんサポートコミュニティー Pink Ring
株式会社フェリシモ
金原出版株式会社
資生堂ジャパン株式会社



【感想（一部抜粋）】

「さまざまなブースを回ることで、がん患者のサポートがいろいろな団体によって行われているんだなと思ひ、今後サポートする側にもなれたら良いなと思った」（がん経験者（告知後1年以上5年未満））

「ブースでウィッグの試着をして脱毛が怖くなくなった。むしろ楽しみにすら思えた。ウィッグで仕事復帰する不安が無くなった」（がん経験者（告知後1年以上5年未満））

「同じがん患者さんの意見・体験が聞けて良かった」（がん経験者（告知後1年未満））

「ネイルをして頂き気持ちが明るくなれた」（がん経験者（告知後10年以上））

「乳ガンの手作りパットは参考になり、自分でも作ろうと思います」（がんと診断されて1年未満の方）

【企画1】 メッセージツリー（がんと診断された方や治療中の方へのメッセージ）

会場では、これからがん治療に臨む方や、今まさにがん治療中の方へ向けたメッセージが書かれた花びらを貼ってツリーを作り上げる参加型企画を行いました。花びらのメッセージは事前にインターネット上で集めたものと、当日会場で書き込んでいただいた花びらを合わせ貼っていきました。さまざまな花で満開となったメッセージツリーはフォトコーナーにもなりました。



【寄せられたメッセージ】 一部抜粋

「多くの方々との出会いに感謝です。生きる力と笑顔をありがとう」

「ひとりじゃないよ」「すべての方にありがとう」

「周囲に頼っていいよ！」

「きちんとした情報を得てください」



【企画2】 「“教科書”にない入院持ち物リスト@2024年版」をみんなで作ろう！

がんサバイバー・クラブの人気コラム「木口マリのがんのココロ」とのコラボ企画。事前アンケートで、入院治療時に持って行って良かった持ち物や、工夫を教えてくださいと会場で展示。当日、参加したみなさんにも、それぞれの経験で役立つものや「このアイデアいいかも！」と思うものに投票していただきました。これから入院される方にご活用いただきたい、多くの方のご意見を反映した特製の入院持ち物リストを含む詳しいレポートは、木口マリのがんのココロ「第79回 “教科書”にない入院持ち物リスト @2024年版をご覧ください」。
(<https://www.gsclub.jp/tips/22190>)



【企画3】 日本対がん協会「がん相談ホットラインに届く声」

日本対がん協会が行う患者・家族支援の1つ「がん相談ホットライン」の活動をパネル展示しました。がんになると、治療や副作用のことだけでなく、お金や仕事のこと、人間関係のことなど、様々な不安や心配事が出てきます。日本対がん協会が運営する無料電話相談「がん相談ホットライン」に届く声を、パネル展示でご紹介しました。詳しくは、がん相談ホットライン
(https://www.jcancer.jp/consultation_and_support/がん相談ホットライン) をご覧ください。



【初】 個別ブースで支援団体が相談対応

広いブース会場では相談しづらい方や、じっくり話を聞いてほしい方に個別ブースをご用意しました。就労、アピアランスなど各々の困りごとやお悩みを落ち着いた環境でお話をいただきました。

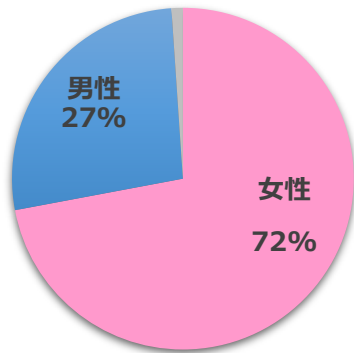


※イメージ

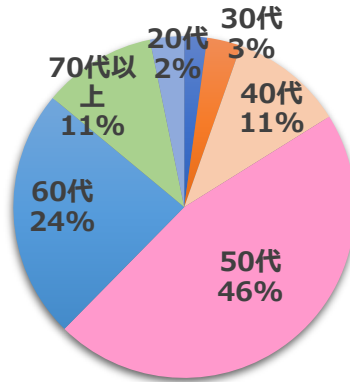
< 参加者アンケートより >

N=93

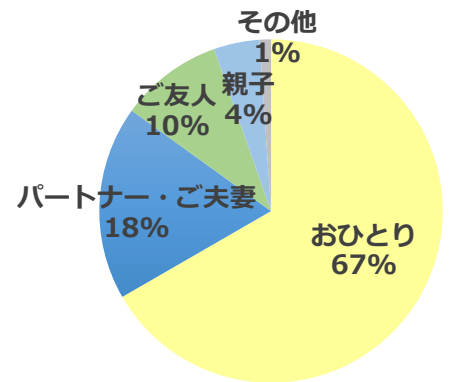
【性別】



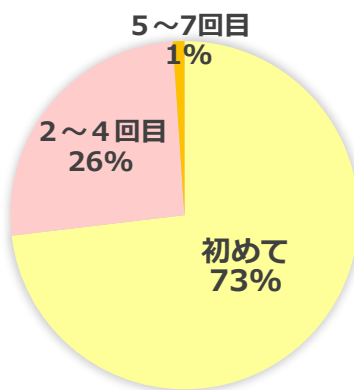
【年代】



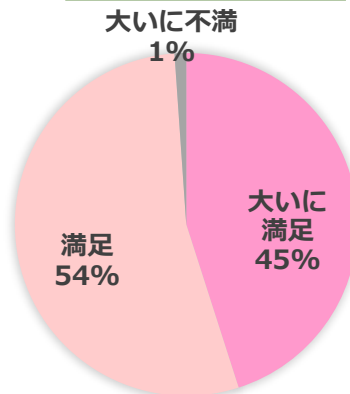
【どなたと参加しましたか】



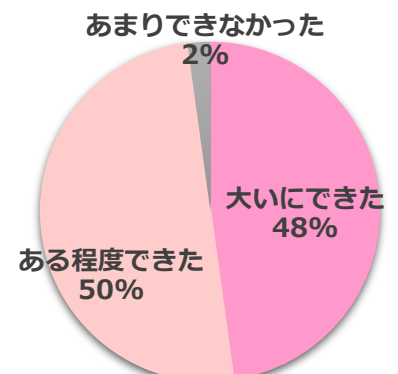
【JCS参加回数】



【イベント全体の満足度】



【有益な情報を得ることができたか】



【感想一部抜粋】

「コロナ禍中がんになった為 直接講演を聴いたり、関係ブースの方々と話をするのも今回が初めてで、とても有意義でした」

「改めて、がんになってもやりたいことをやって、自分らしく生きていこうと思いました」

「リアル開催で、会場にて仲間の人たちに会え、大満足。」

「告知を受けてから、先が見えないことが一番不安でしたが、ブースや講演をお聞きして、何をすればいいのか、困ったときはどうすればよいかが見えてきた」

「ひとりで前向きになれない時がありましたが少し元気になりました」

「患者が孤独にならないサービスがたくさんあることを知りました」

参加者の感想アンケート詳細はこちら



<https://www.gsclub.jp/wp-content/uploads/2024/07/4df208613e313bdcc7266b1fd98b71aa.pdf>

ジャパンキヤンサーサバイバーズデイ 2024

2025年は6月1日に開催予定
次年度も宜しくお願ひいたします